

持続可能な地域を創造

苦東コモンズの歩み出版

大ら 北投
小磯 特任教授

小磯修二北大公共政策大学院特任教授ら3人の共著による「コモンズ地域の再生と創造——北からの共生の思想——」が発刊された。広大なオープンスペース（緑地）を有する苦東地域の自然をフィールドにした、NPO法人苦東環境コモンズの取り組みなどを紹介している。



8年から、当時釧路公立大学長だった小磯氏らが、北海道開発協会と共同で研究会を立ち上げ、地域資源の持続的活用を先駆的事例として、苦東

を対象に調査研究を進めた。

10年1月に活動母体としてNPO法人苦東環境コモンズを設立。地域住民らがフットパスなどにより、豊かな自然を楽しみ、活動内容をまとめた

「コモンズ」とは、環境資源を持続可能な形で維持管理する制度や組織。苦東環境コモンズは200

むことができるよう、維持管理や環境保全活動に取り組んだ。12年からは北大公共政策大学院と共同で国内外のコモンズの事例調査などを進めた。本書では、小磯氏と道開発協会開発調査総合研究所の草刈健所長代理、プランニング・メッシュの関口麻奈美代表が、活動の経過や今後の持続可能な地域社会形成に向けた、コモンズの意義・思想をまとめた。

定価2600円(税別)で、北海道大学出版会が出版。15日には、北大百年記念会館で著者3人が報告会を開いた。

コモンズの事例報告

北大公共政策大学院などがセミナー

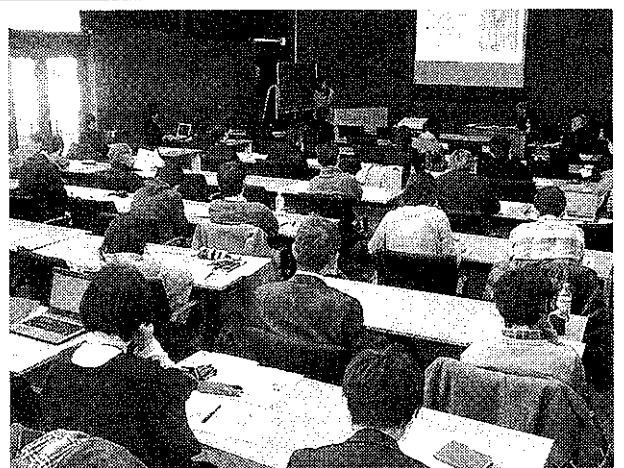
北大公共政策大学院と北海道開発協会は15日、札幌市内の北大百年記念会館で「コモンズ 地域の再生と創造——北からの共生の思想——」と題するセミナーを開いた。苦東地域をフィールドにしたNPO法人苦東環境コモンズの取り組みや、国内外の事例を報告。学生ら市民と共にコモンズの役割や可能性を考えた。

コモンズとは、環境資源を持続可能な形で維持管理する制度や組織を指す。今回のセミナーは、小磯修二北大公共政策大学院特任教授ら3人の共著による「コモンズ 地域の再生と創造——北からの共生の思想——」が発刊したことを受けて開いた。

報告者は、著者の小磯氏と道開発協会開発調査

総合研究所の草刈健所長代理、プランニング・メッシュの関口麻奈美代表の3人。小磯氏は「オープンスペースの活用は、人口減少に直面する地域にとって重要なテーマ。コモンズの取り組みは、地域が抱える課題解決の切り口となる」と説いた。

その後、各氏が苦東環境コモンズの活動や、先駆的事例として浜中町での霧多布湿原保全の取り組み、フィンランドなど海外の事例を紹介した。



学生らがコモンズの役割や意義などを学んだ